

エコユニット活動報告書 (2024. 7～2025. 6)

＜エコユニット情報＞

ユニット名	エコてく。KCT			ユニット No.	10010030
構成人数	全 体 (※1)	30	所属する エコビープル		
母体となる組織 (※2)	企業 (団体) 名	株式会社ナレッジクリエーションテクノロジー			
ホームページ	URL	https://www.jpckt.com/			

▲活動報告 (1)

【活動名称・タイトル】

世界遺産「オーストラリア ブルーマウンテン・オペラハウス」視察

【活動の時期・期間】

2025 年 6 月 22 日 (日)

【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います

参加人数:3 人

世界遺産である、「オーストラリア ブルーマウンテン・オペラハウス」の世界遺産の視察会を実施しました。ブルーマウンテンズの正式名称は「Greater Blue Mountains (グレート・ブルーマウンテンズ地域)」。ブルーマウンテンズ国立公園を含む、原生林に覆われた 100 万ヘクタールに及ぶ広大なエリアを指し、世界自然遺産に登録されています。ブルー・マウンテンズ地区に広がる鬱蒼とした森には、 Gondwana 大陸に由来する植物が多く自生しており、古代の植生が見られる貴重な場所でもあります。こうした太古の森と、そこに生息する生物多様性が、残すべき人類の遺産として認められ、ユネスコの世界自然遺産に登録されることになりました。

また、そのルーツを約 2 億年まで遡ると推定されている「ウォレマイ・パイン」が、このブルー・マウンテンズ地区だけに自生していることも、世界遺産登録の過程で重要視されたと言われています。

ジュラシック・ツリーの愛称で呼ばれる「ウォレマイ・パイン」は、その古さと発掘されてきた化石の記録から絶滅したと考えられていました。しかし、1994 年にブルー・マウンテンズの世界遺産地区の一角で発見され、世界の植物学会を揺るがす大ニュースとなったのです。

シドニー・オペラハウスはオーストラリアのシドニーにあり、オーストラリアのシンボルとして有名な建築物です。2007 年、世界遺産に登録されました。20 世紀を代表する建築物の 1 つと言われています。貝殻やヨットの帆のように見える独特且つ複雑なデザインがこのオペラハウスの特徴的な点です。

【期待する活動の効果】

2019-2020 年のオーストラリア大規模森林火災では、このブルー・マウンテンズ地区一帯でも、83 万 8 千ヘクタール以上を焼失するという大きな被害を受けました。ただ、この地帯は土の中で休眠状態にある植物の種子が発芽するためには、何らかの外部要因を必要とします。現在では、光や温度、水分状態が要因になる種が多くなっていますが、古代から受け継いだオーストラリア固有の植物の多くは、発芽要因として山火事などによる火を必要としています。ただ、自然災害とみるだけでなく、山火事も古代からの自然の営みの一部であるということ再認識するとともに、山火事＝災害ではなく、地球の発展に必要な側面もあるという 2 面を理解し、ものごとの裏を読み取ることの重要性を確認しました。

【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】

今回視察した、ブルーマウンテンでも大規模な地球環境の変化や過去の開発に伴い傷んでいるところも出てきている。世界全体を俯瞰して観察しても地球環境の負荷の拡大や、公害や汚染などにより様々な弊害や異常気象などが発生している。持続可能な環境を構築するにあたり、色々な努力が必要となる。そのために、AI などを活用した環境負荷低減モデルの構築やシミュレーション、仮想化など ICT を活用した課題解決策を模索することが求められる。

当社の社訓である豊かで調和のとれた社会の構築に向け、我々自身が ICT 企業であるので、自社ソリューションが社会の課題解決の一助となるように支援を行ってゆく。

【実績】

今回の取り組みは初めての取り組みですか？ 継続した活動ですか？
① ☒ 初めて ② ☐ 継続 (年 月頃から)
【ホームページ】※参照するページがあればURLをご記入ください。
N/A

▲活動報告（２）
【活動名称・タイトル】 オフィスのエコ活動
【活動の時期・期間】 2014 年 1 月～現在
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います クリーンオフィス、グリーンオフィスを社員一人ひとりが実践する。活動内容は、以下の通り。 ・本社及び各事業所メンバーによる、ペーパーレス化の実施。 ・紙コップを使用しない。(マイボトルの推奨) ・社内用書類の印刷簡素化(縮小印刷等) ・観葉植物設置(職場内緑化)。 ・離籍時の PCOFF 対応(節電)。 ・ISO14001 の取り組みに沿った、活動の可視化。
【期待する活動の効果】 ・紙使用量の削減(森林伐採削減) ・消費電力の削減(発電量減少) ・目の保養(健康増進)
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】 本社勤務、現場勤務と勤務地に違いがあるため、全てのエコてく。メンバーに浸透していない。今後は、各現場にエコてく。サブリーダー(現場リーダー)を設け、本社勤務メンバー同様の運用とする。また、新事業所は計画的にプリンター等を新設せず、ペーパーレス化などの対応を推進している。
【実績】 今回の取り組みは初めての取り組みですか？ 継続した活動ですか？ ① 初めて ② ☒ 継続 (2014 年 1 月頃から)
【ホームページ】※参照するページがあればURLをご記入ください。
N/A

▲活動報告（３）
【活動名称・タイトル】 献血サポーター(日本赤十字社)
【活動の時期・期間】 2021 年 9 月～現在
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います 病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんの尊いいのちを救うために、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアをエコてく主体で、社内で啓蒙し、有志で実行する。(本年度 1 件)
【期待する活動の効果】

・献血については、即時性及び直接的な社会貢献活動となるため、業務時間内での活動を認めると主に、献血協力者に対しては、社内で表彰状とを行うようにして、参加者を増やし、身近な社会貢献について、社内で醸成を図る。
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】
昨年は、福岡、沖縄事業所を中心に事業所単位で、活動に参加した。今年度は、全社や各事業所単位で旗振り役を設置して、取組について周知を図る。
【実績】
今回の取り組みは初めての取組みですか？ 継続した活動ですか？
① 初めて ② 継続 (2014 年 1 月頃から)
【ホームページ】 ※参照するページがあればURLをご記入ください。
https://www.ken-sapo.jp/supporters/show?prefecture_id=13

▲活動 【指定テーマ】
【活動名称・タイトル】
エコピープルを増やすための活動（eco検定普及活動）
【活動の時期・期間】
エコピープル活動(加入時期)から継続的に実施
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います
当社エコ活動のチーム「エコてく。」の参加メンバーは、2025年6月時点で30名になります。メンバーは、eco検定を含む環境に関連する資格試験の取得による、環境学習を積極的に行えるよう、該当資格の取得に補助や人事考課のプラス評価などの仕組みを取り入れ、「エコてく。」メンバーが主体的に向学心を持てるように取り組んでいる。(現在、4名がeco検定を合格)また、「エコてく。」未参加のメンバーも社員全員及びその家族については、課外活動に参加できるように支援、広報活動を行う。また、環境に関わるその他のご当地の資格も事業所ごとに取得推進をはかり、本年度は、熊本事業所において、くまもと水検定を事業所メンバで取得を目指し、計4名が合格しました。
【期待する活動の効果】
環境に関する知識の醸成と、そこから当社の掲げるエコ活動への動機づけと日常生活におけるエコへの意識の向上とエコエバンジェリストとなることを期待している。
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組みについて】
資格取得しやすい環境作りが、会社全体で行われる必要がある。特に、持続可能な社会を目指すために、SDGsの取り組みを社内に浸透させていく必要がある。会社主体で、SDGsの活動イベントを開催して、啓蒙活動や動機づけを行っていく必要がある。また、資格試験に合格するだけでなく、継続的な学習として、世界自然遺産の見学やエコツアーリズムなどに参加することで、発展的学習を図ってゆきたい。また、本年度は、社員にSDGsのピンバッチを配り、自社の取り組み含め、社外にもアピールをするように心がけた。
【実績】
今回の取り組みは初めての取組みですか？ 継続した活動ですか？
① 初めて ② 継続 (2010 年 4 月頃から)
【ホームページ】 ※参照するページがあればURLをご記入ください。
【活動名称・タイトル】

★来年の計画や活動テーマ、抱負。

本年度は、地震や水害など様々な天災に見舞われた年であった。災害時に必要となる献血について、日本赤十字社(サポータ登録)の献血を個人で活動できるように社内でもサポート体制を作り、有志による献血活動を実施、推進した。一方で 4 半期に一回行っている、社内でのエコに関する情報共有会は、オンラインにて継続的に実施し、社内での情報連携に努めた。なお、次年度は、上記活動を継続的に行うとともに、前年に引き続いて 1.SDGs 事業者としての取り組みを拡大する、2.地域ボランティア(貢献する) 3.環境に関する教育(広める) 4.環境に関する知識の醸成(学ぶ) 5.グリーンオフィスを推進(実践する) 6.個人で実践する の6つの活動分野を深化させ、特に地域ボランティアでは、社員参加型の地域貢献活動などを通じて、社員の環境活動への動機づけや気付きなどを醸成してゆき、社員のリベラルアーツ教育に一助となるような活動とする。また、自社事業の活動で、持続可能な環境づくりに資するソリューション開発(エコフィード、カーボンニュートラル)など事業を推進し、持続可能な開発目標の達成を図って行く。